



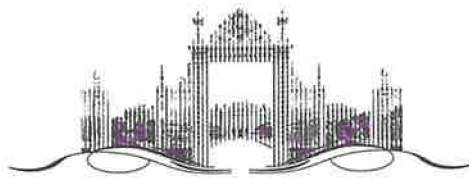
Rotary International

LEAD THE WAY

率先しよう

2006～2007年度

国際ロータリーテーマ：ウィリアム ボイド会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

東京赤坂ロータリークラブ

No.953 / 2007.5.25

例会 / 毎週金曜日12:30

例会場 / 東京全日空ホテル Tel 03-3505-1111

事務局 / 〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8

赤坂2丁目アネックス3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp

http://www.k5.dion.ne.jp/~akasaka

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「これまでも、これからも 皆で築こう赤坂ロータリー」

2006～2007年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ / 荒木昭文会長

●本日の例会 / 2007年5月25日第976回例会

◎卓話

『内部統制の考え方～今話題のJ-SOX法とは～』

中村公認会計士事務所 公認会計士 税理士
ITコーディネーター ファイナンシャルプランナー
中村 元彦 氏 (東京神宮ロータリークラブ)

「こども環境白書」寄贈報告

今年度、社会奉仕委員会の環境保全担当委員会では5月18日(金)例会終了後、港区内の小学校2校に「こども環境白書(平成18年度版)」を寄贈した。山越正秀赤羽小学校長に90部、榮健芝小学校長に130部を荒木会長より手渡しました。校地の狭い都心の両校は、環境への教育に力を入れている矢先であり生徒への学習の参考になりたいと喜んでいただいた。(福島 記)

—●先週報告 / 2007年5月18日 第975回例会—

◎ブッフエスタイル例会のため卓話はございません。

幹事報告:

ロースター訂正のお願いです。二宮会員の事業所ファックス番号を訂正下さい。

(誤) 3422-3599 → 3422-5399 (正)

慶事披露:

誕生日祝 / 尾上 寛君
(5月20日)



出席報告:

会員55名 / 出席28名・欠席27名 (出席規定免除者5名)

出席者 荒木会長、石井幹事、庄司社会奉仕委員長、福島環境保全委員長



お知らせ

◆会員(ロースター)訂正 / 二宮 利泰 君

事業所FAX 03-3422-3599 (誤) → 03-3422-5399 (正)

◆会員住所変更 / 吉岡 琢磨 君

〒151-0064 渋谷区上原2-20-6-204
自宅電話番号は変更ありません。

●次週予告 / 2007年6月1日 第977回例会

◎卓話予定

『東アジア経済を中心とする国際経済概況と中国』

愛知淑徳大学 ビジネス学部教授 真田 幸光 氏

(紹介者 荒木 昭文 君)



5月18日 / 6件 12,000円 / 本年度累計1,243,335円
多額のご寄付をありがとうございました。(敬称略)

荒木昭文 / 本年度最後のブッフエスタイル例会を皆様お楽しみ下さい。尾関武男 / 本日、例会途中で失礼します。尾上寛 / 誕生日祝有難う御座います。5月20日57才になりました。岩上義明 / 東京に初夏の訪れを知らせる浅草三社祭が今日から始まります。私もガンパって参加してまいります。鶴間喜久男 / 先日のゴルフ決勝大会は、残念でした。カットマンは誰? 来年頑張りましょう。庄司泰典 / 5月20日の「風の子会」参加の皆様ご苦労様です。

第5回クラブ協議会（4月27日開催）

テーマ「職業奉仕について」

（先週の続き）

③福島 賢哉 会員

皆さんは、姉齒さんや木村建設、ヒューザー、アパグループと聞けば何のことかすぐお分かりでしょう。そうです、耐震偽装事件です。昨日も、アパマンションでの耐震偽装が新たに発覚しました。構造計算の数値を改ざんしてあたかも耐震性のあるような設計から、コンクリートの量、鉄筋を減らすなどで経済性を追求し、大地震では倒壊の危険のある建物を建築した事件です。

一昨年秋に発覚した「構造計算偽装問題」は、建築業界のみならず国民の財産価値を根底から揺さぶる大事件に発展したことは、生々しく記憶されていることと思います。

ようやく1年半で、全国の疑いのある建物の調査が国の機関で解明が進みほぼ収束に向かっています。

一人の姉齒建築士が起こした特異な事件という当初からの認識は、大規模で根深い構造が存在するという認識に転換していきました。

一生に一度の高価な買い物であるマンションの安全性が確保されていないという大きな衝撃。行政の確認制度や建築生産への不安、不信が増大していきました。

なぜ偽装が起ったか。建築技術が高度化、複雑化に伴う建築士の専門分化していったこと。構造設計者が下請業態化しいき過重労働や地位の低下で国家資格である建築士の機能不全が生じたことでした。

また、なぜ見過ごされたのか。建築技術の高度化、専門化しながら建築確認の件数が増大し、行政だけでは処理能力の低下が生じ、民間確認機関に市場開放したのでした。その結果、市場競争による「めくら半」的な審査の形骸化が横行したのです。

事件の背景には、デイベロッパと呼ばれる開発業者の存在を抜きに語れません。彼らが費用対効果の最大利益を求めて投資用の土地を手当て、分譲マンション計画を立て、さらに一般消費者に魅力ある物件として販売する一連のシステムが構築されます。この中に建築士の役割として経済性の追求という名の下の過酷な設計や報酬を強いられているのが実態でした。したがって、目に見えて問題が発覚しにくい構造体の数値を操作して、他の物件より安く差別化されたマンションとして建築されたもので、詐欺まがいの不法行為なのです。

二度とこのような事件を起こさぬよう、官民一体となって昨年中に建築基準法、建築士法の整備から、今年6月末には大幅改正された法律の一部が施行されます。

特に、オールマイティーの業務独占である建築士に、さらに構造、設備の専門建築士を創設することや、資格試験の要件見直しで設計事務所などでの実務経験を問うなど一段と厳しさを増すことになりそうです。また、行政の審査も本来の手続きのため期間の大幅な延長が認められるようになり、工事の着手までに余裕が必要になることでしょう。さらに、審査以降の設計変更が極端に出来なくなります。変更となれば出しなおしとなり、経済的には今までより費用が嵩む

ことになるでしょう。それぞれの建築士の地位向上が図られることになれば、安い設計料は望めません。しかし、これこそが、安全、安心を求める消費者の価値につながることであるわけです。ロータリーの職業奉仕、4つのテストのとおりどの段階の業種でも守られていれば、今回のような事件は起こらないはずなのです。みんなのためになるような設計を心がけていきたいと思います。

風の子会「荒川線チンチン電車でぶらり旅」

5月20日（日曜日）初夏の日差しが差す快晴の下で、風の会主催のぶらり旅が行われた。全部で12班に別れて、荒川線沿線を障害者と一緒に車椅子を引きながら、心地良い風に吹かれて、汗をかきながら、歩いた。途中の巣鴨駅そばの刺抜（とげぬき）地蔵の辺りでは、数班の会員と一緒にになり、お互いにご苦労さんの挨拶を笑顔で交わした。各班の最終集合地である新橋駅隣の生涯学習センター「ばるーん」には大体午後4時30分頃には全員が集合して、解散式が行われた。当クラブからの参加者で、有志による打上げ会を、新橋駅の隣の居酒屋で行い、お互いの労をねぎらいあった。何か良いことをしたと言う満足感に浸り、美味しい酒を飲みながら、宴席は大変盛り上がった。当日参加の皆様ご苦労様でした。（庄司 記）



参加者 飯島、石井、村山、西澤（民）、尾上、尾関、清水、田村、渡部、庄司（順不同・敬称略）

